

## さいたま市シニアユニバーシティー岩槻校第9期大学院会報第3号

### 久伊豆神社の夏越大祓

4班 蓮見 ○

私たちが日頃知らず知らずのうちに犯してきた半年間の罪穢れを人形（ひとがた）に移し、夏枯れ（気枯れ＝精神の衰え）を防ぐため、茅の輪をくぐって災厄を防ぎ、心身を祓い清め無事な生活を祈る神事と聞いております。

今年も6月30日は、天候に恵まれ150人程参加が見られました。ひとがたに自分の氏名を書き、静かなる反省と祈念をこめて身体を撫ぜ、息を吹きかけて袋に納めて奉納しました。つづいて説明と行事が行われ、大祓詞の900文字を全員で読み上げ、つづいて茅の輪を8の字にくぐりながら「水無月の夏越の祓いする人は、千歳のいのち延ぶというなり」と歌いながら最後に本殿にお参りをしたの1時間半の神事でした。帰りにお神酒を御馳走になり、ミニ大祓茅の輪をいただき、季節の銘菓（水無月）をおみやげにみんなすがすがしい気持ちで帰って行った気がしました。



水無月の  
夏越の祓する人は  
千歳のいのち  
延ぶというなり

### 南米の旅

4班 横田 ○○

私は今までに30か国位の観光地を旅行致しました。ヨーロッパは、お城や建造物が美しくオーストラリアは自然が豊かでした。又、アフリカは、間近に野生動物が看られるなど、どの国も素晴らしいの一言につきる所でした。

10年前に行った南米の旅は、特に心に残っています。ロスアンゼルスで乗り継いで20時間かけてリオデジャネイロに着きます。更に奥地に入り、イグアスの滝に。幅2700m、大小270もの滝の大きさに圧倒されながらブラジル側、アルゼンチン側両方の国から観光出来ました。本場のサンバ、タンゴの迫力にびっくりしたものです。そしてペルーへ。飛行機の眼下にチチカカ湖が、朝日に照らされてキラキラかがやいてとても幻想的でした。そしてマチュピチュへ。まずクスコの飛行場に着き、そこからバス、列車に揺られる行程でした。標高3000mの所なので、胸はドキドキ、ムカムカで、ホテルのディナーが食べられず残念な思いを致しました。

翌日の朝、目の当たりのマチュピチュの全景をみて感動で、身震いしたのを覚えています。現地ガイドが、日本の方で尺八を持ってきていて、高台で、さくらさくら等を演奏して下さり気分が一気によくなり、マチュピチュを十分に堪能出来ました。海外旅行を、あちらこちら連れて行ってくれた今は亡き主人に感謝しています。



### 伊勢路を旅して

4班 小林○○

私は、5月20日から2泊3日の予定で友人3人と伊勢に参りました。1日目は名古屋駅で下車して名古屋城を見学しました。本丸御殿は威風堂々としていて名工の技と心の集大成に感銘を受けました。

又近くの徳川園の日本庭園も散策致しましたがとても心が和みました。

翌日は、伊勢の皇大神宮の内宮へ、五十鈴川の川上に千古の森に囲まれている古代の佇まいに今日玉砂利を踏みしめて身の引きしまる思いで参拝いたしました。ガイドさんの説明によると伊勢には、豊受大神宮外宮の両大神宮を中心として125の宮社があるそうです。昨年遷宮を迎えて参拝の人が絶えませんでした。

この後おかげ横丁をぶらぶら致しましたが、また大変な賑わいでした。





6月28日 埼玉県本庄中学校の同窓会に出席してきました。会の名前を三さん四し会かいといい、昭和34年の卒業生の集まりです。1クラス40名で12クラスあるというマンモス中学校でした。10年に一度の開催なので、初めのうちは名前と顔が一致しないで、さながらダウトのようにエー・・・と、としばらく考えるようでした。がアルコールが入り話が弾むうちに思いだしたようで、会場も騒然としてきました。(全員が古希を1年過ぎたので加齢臭もあったと思う) だいたい当時の悪ガキはすぐ判るとみえて、話の中心にいます。

話題は当時の先生に怒られた事、いまではすぐ教育委員会で問題にされるようなことが、日常茶飯事でありました。家に帰って親に話すと、「お前が悪い」と逆に叱られるので、みんな黙っていました。「先生は絶対に正しい」というのが親には染みついていたように思う。

今回の出席者は卒業時の約30%で160名でしたので、昔で考えても長寿ということがわかります。クラスごとに丸テーブルで12か所設営されていましたが、クラスを入り乱れて話に花が咲き、3時間が過ぎ最後はプリントされた、校歌を全員で合唱して散会したが、残り少ないので(?) 来年からは毎年同窓会を開催することを幹事から提案があって、全員が賛成し各クラス毎に二次会に向かった。みなさんお元気でいらっしゃる。

## 出会いに感謝

## 4班 濱野○○

仲間づくりの原点は人との出会いを大切にし、会話するという事ではないでしょうか。今まで多くの人との出会いがありたくさんの友人も得ました。

職場での仲間との出会い、退職後、いろいろなサークルでの仲間との出会い、多くの友を得て時々楽しいひと時を過ごしたり、困った時には相談したり、さされたりと切磋琢磨して過ごしてきたように思います。今はシニア大学の皆さんとの出会い、パソコンクラブでの良き師との出会い、楽しいランチ……等々

早朝ウォーキングで出会う人たちも、毎朝顔を合わせているうちに自然に挨拶するようになり言葉を交わす、そんな中にも色々な情報が得られます。

毎朝3時間も歩いているという、90歳を過ぎた元気なおじさんは、健康、生きがいは自分で作るものを楽しそうに歩き方をし、階段は駆けあがり、ネットで探しては色々な所に歩きに行く。琉球大学で学ぶお孫さんの所へも1人で遊びに行く。とにかく元気。「思いついたら70、80からでも遅くないですよ」と。あやかりたい凄いな元気なおじさんとの出会い。色々な人との出会いがあり、支えたり、支えられたりがあって今の自分がある。これからも人との出会いを大切に会えた喜びに感謝しながら過ごしていきたいと思います。

12月息子のところに生まれる、私にとって2人目の孫との出会いを楽しみに。



## 狐の嫁入り

## 6班 田村 ○○

去る四月のある日、NHKのテレビで、高崎市の一部地域で狐の嫁入りのイベントがあると放映していた。映像を見ている内に、全く忘れていた幼き日の一場面が鮮明に思い浮かんできた。

私の出身地は、今は本庄市となっているが、塙保己一検校の生家があることで有名な児玉町で、当時はテレビもなく、夕餉が済むと、あたりは静寂そのもの。そんな静かな或る夜、近所のおじさんが「おーい！狐の嫁入りだぞー」と叫んだ。道の両側の人々が、大人も子供も飛び出して、かなりの人が集まって、近くの山の方向を見ると、青くて黄色い明りが並んで移動しながらもっているのが見えた。当時は、本当に狐の嫁入り行列と思っていたように思うが、今になって考えてみるとそんな訳もなく、明りの正体は何だっただろうと気になって仕方がない。どなたか教えてくださいませんか。